

原作 有吉佐和子
脚色 小幡欣治
演出 西川信廣

二 婆

さんぽ

「出演」
佐々木愛
有賀ひろみ
阿部敦子



photo 坂本正都

第 307 回 2019 年旭川市民劇場 2 月例会

2 月 27 日 水 6 : 3 0
2 月 28 日 木 1 : 3 0

上演 = 2 時間 40 分
時間 (含休憩 15 分)

会場 = 旭川市公会堂
(旭川市常磐公園内)

次の例会

4 月例会 劇団 NLT プロデュース
『ミュージカル O.G.』

出演：旺なつき 阿知波悟美

4 月 9 日 (火) 6 : 3 0
10 日 (水) 1 : 3 0

会員になると年 6 回の演劇を鑑賞できます。詳しくは旭川市民劇場まで。TEL: 23-1655

三婆さんば

劇団文化座公演

原作 = 有吉佐和子

脚色 = 小幡 欣治

演出 = 西川 信廣



※キャスト※ 佐々木愛 有賀ひろみ 阿部敦子 佐藤哲也 山崎麻里 筆内政敏 ほか

※スタッフ※ 美術●小池れい 照明●塚本 悟 音響●齋藤美佐男 衣裳●岸井克己
音楽●上田 亨 舞台監督●鳴海宏明 制作●中山博実

※ものがたり※

時は1963(昭和38)年、金融業者の武市浩蔵は妾駒代の家で急死する。報せを聞いて本妻の松子と浩蔵の妹タキが駆けつけた。お互い「カボチャ婆」、「電気クラゲ」、「キツネ」と陰口をきいている三人の遭遇である。

四十九日も無事に済ませ松子は一安心するも、タキが兄の家に住むのは当然と押しかけてきた。さらには駒代も新橋の料理屋の普請が済むまで部屋を貸してほしいとこれまた居座ってしまう。かくして本妻と妾と小姑、一筋縄では行かない三婆が一つ屋根の下に同居することになった……。

「三婆」が帰ってきた！有吉佐和子原作、小幡欣治脚色による「三婆」は東宝現代劇での初演以来繰り返し上演されてきました。文化座での初演は1977年で、翌年には北海道から九州・沖縄にいたるまで全国各地で公演を重ね好評を博しました。その後、1988年の再演でも全国公演を果たした劇団の代表作の一つです。

その「三婆」がいよいよ、全国の演劇ファンの再演要望の声にお応えして、満を持して新キャスト・新演出で全国に発進します。

老いること、生きていくこと、そして、人と人との繋がりを、笑いと涙の中で今また考えてみたいと思います。社会性とエンターテインメントを兼ね備えた人間喜劇の傑作にご期待ください！

※アンケートより※

★お三方がとても可愛らしくお茶目で、それに振り回される男性人や、男女間の何とも言えない関係、理不尽さを感じて面白かったです！面白さの中に伝わる確かなものがある。こんなに素敵なお芝居を観たのは久しぶりです。お客様にも愛される素敵な役者さん、劇団さんだと思いました。(10代女性)

★それぞれの深い孤独感が、いがみ合いという表現で、ややこしい人間関係をつくっていくのだが、笑って観ていながら、しみりとうなずいたり、泣いたり、観客の感情を豊かにほぐしてくれる舞台でした。松子が、泣いて一緒に暮らそうと頼む場面、人間は一人で生きていくのはあまりにも淋しすぎる。ごちゃごちゃしてもやっぱり共に生きていきたい、という真心がほとばしり出て、共感して泣けてしまった。



年をとったあとの生き方や社会のあり方まで考えてしまう、誰にも共通のテーマだった。(67才女性)

★仕事を離れ、相棒(主人)も旅立ち1人暮らしを始めて5年目、やっと自分の今後の生き方を考える時期になっています。人と人との繋がり、絆、たくさんの元気をいただきました。(70代女性)

